

## 英語コミュニケーションコースに適した学修到達及び成果の評価のあり方に関する

## FD研究開発プロジェクト

申請代表者 メベッド シェリフ (法学部)  
 今村 潔 (経営学部)  
 ホワイト ショーン (経営学部)  
 ロザーティ サイモン (経済学部)  
 吉本 圭佑 (政策学部)

## はじめに (研究の目的)

近年、大学教育の質保証が課題となっている。これにより、学内外において各教学主体が教育理念と AP・DP・CP との整合性を図り、各理念に基づく PDCA サイクルを構築しつつある。英語コミュニケーションコースにおいては、コース設置以来、関係する3学部(現：4学部)の下に、独自の教育理念及びカリキュラムを持ち、所属する学生の学習成果及びコースの教育効果を常に評価し、その結果をコースの運営や改善等に利用してきた。しかし、その評価方法等は、コース生及びその他学内外者にとって、学びの成果を十分に理解し、役に立つものになっているかどうかという疑問の他に、現在コース設定の「学生に保証する基本的な資質」及びカリキュラム等との整合性の問題が顕在化していた。このような課題認識のもと、本 FD 研究開発プロジェクトにおいては、学習到達及び教育成果の評価を検討し、今後の英語コミュニケーションコースに適した評価のあり方の方向性を固め、次年度試行的に実施していくことを研究目的とした。

## 研究の内容と研究成果

## 1. 現状認識

現在の英語コミュニケーションコース教育目標は、「学生に保証する基本的な資質」という基本概念のもと、以下のように設定されている。

学生に保証する基本的な資質	
知識・理解	英語圏の言語や文化の理解をもとに、国際的視野を備えている。
思考・判断	異なる文化や価値観を理解した上で意見交換できる柔軟な思考力を身につけている。
興味・関心	英語および異文化に対する興味・関心を持っている。

	異なる文化や価値観を理解しようとする探究心を持っている。
態度	自ら目標を定め、その実現に向けて自律的に学習することができる。
	仲間と協調して学び、働く能力を身につけている。
	積極的に英語を用いてコミュニケーションを図る姿勢を身につけている。
技能・表現	英語圏での日常生活に支障のない英語の4技能（読む・聞く・話す・書く）を身につけている。

これらに対する評価は、このコースのカリキュラムの中にある授業レベルと、コースレベルの2つで行われる。授業レベルでは、各授業において履修する学生の学びの評価は、授業担当者が自らの専門能力と作成したシラバスに基づき独自に行う。コースレベルでは、英語コミュニケーション能力判定テスト、CASEC (Computer Assessment System for English Communication) と卒業（コース終了）者アンケートを用いて、次の表のように評価活動を行う。

コースレベルにおける評価	
方法	時点・目的
CASEC (英語コミュニケーション能力判定テスト)	第3 Semester (コース申し込み時) ・受け入れ参考及びレベル別クラス編成
CASEC (英語コミュニケーション能力判定テスト)	第5 Semester (第4～第5 Semester 必修 Oral Communication I～II と Writing I～II 科目終了時) ・語学能力の伸びの測定
英語コミュニケーションコースに関するアンケート調査	第8 Semester 終了 (卒業時) ・学生に保証する基本的な資質に対する学修自己認識及び教育効果測定

ここにはいくつかの問題点が見られる。

- 1) 授業レベルでは、学生に保証する基本的な資質との具体的な繋がりや整合性があるかどうか不明確。
- 2) 授業レベルでは、各授業においてシラバス等により担当者が定める、評価基準となる明確な到達目標があるが、授業外の水準との整合性があるかどうか不明確。
- 3) コースレベルでは、CASEC による客観的な言語能力評価が行われるが、第6 Semester 以降は学生の言語能力の実態を把握できていない。
- 4) CASEC は実施の容易さ、低コスト、TOEIC 等との相関が高く換算もできることなどの利点があるが、学生及び一般社会での認知度は低く、結果の解釈も難しいことがある。

- 5) CASEC のテスト対象や範囲は、受験者のコミュニケーションに必要な語彙知識、表現知識、リスニング力が主なものとなるが、当コースの中心となる必修科目(Oral Communication 及び Writing) で育成するスピーキングやライティング力など直接に評価できない。同じく、リーディング力の評価もできない。
- 6) 英語技能・表現以外の「学生に保証する基本的な資質」のコースレベル評価は、卒業時のアンケート調査により文化に対する理解、思考・判断力、興味・関心、態度等を対象とするが、主として学生の意識や満足度を測る。しかし、学生へのフィードバックもなく、各学生の伸び等の客観的な測定もない。

以上の問題点の解決方法を検討するために、本プロジェクトを立ち上げた。

## 2. 研究計画と活動

本年度は、文献調査、他大学等の事例調査・アンケート調査、専門学会における研修と情報収集、学外有職者を招聘した FD 講演会など、次年度評価のあり方の試行的な実施に向けての計画となった。時間等の都合でアンケート調査まで至らなかったが、全体として次の活動を実施した。

活動	時期	内容	備考
文献収集・調査	5月～ 3月	発信コミュニケーション能力、異文化理解力等に関する情報収集	
PJ チームミーティング及び懇談会(第1回)	6月	情報や資料の共有の他に、現状確認、問題、予定の検討等	4年次において CASEC、TOEIC 受験を加える、異文化理解測定の見直し
他大学等の事例調査	6月～ 7月	ネットによる大学英語プログラムに関する情報収集	
学会出張	8月	第56 大学英語教育学会国際大会(29日～31日、東京都青山学院大学)	発信コミュニケーション能力評価、英語検定試験(TOEIC, TOEFL, GTEC, TEAP)、ポートフォリオ評価、CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)の CAN-DO 評価に注目

PJ チームミーティング及び懇談会（第2回）	11月	情報や資料の共有、継続検討等	テストによる評価だけでなく、カリキュラムベースの組織的な評価も検討する
招聘講師による講演会	1月	『学生の発信能力及び教育過程との成果の評価のあり方について－立命館大学「プロジェクト発信型英語プログラム」からの視座－』（講師：立命館大学国際部副部長・生命科学部准教授山中司氏）	カリキュラムの中での評価の位置付けと取組みに注目
シンポジウム出張	3月	『2017年度 CEFR-J 公開シンポジウム：CEFR-J 2018』（17日～18日、東京都成城大学）	CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の日本版 CEFR-J の CAN-DO 評価に関する研究報告、研修等

### 3. 研究成果と今後の課題

本年度の研究成果として次の4つがある。

- 1) CASEC の4年次（第7セメスター）での実施導入を提案：語学能力測定の面では、3年次～4年次の学修・教育効果等を評価する必要があるという共通の意見があり、他大学等のプログラム使用や、社会において知名度が高く、おおよその英語力の目安が付きやすい TOEIC 導入の可能性が検討されたが、現段階では既にプレースメントテストと2年次～3年次の評価で使用している CASEC の4年次実施を提案することを決定した。また、TOEIC に関しては「実用性」が認められるが、CASEC により一貫性を持たせられること、比較的 low コストで実施時間が短いこと、TOEIC や他の試験との相関性が高くスコアの換算が可能なこと、さらには、TOEIC 受験無料化や英語能力測定のためのその他の取組み（グローバル教育推進センターのグローバル・パスポートによる受験料補助制度など）を行っている学部もあるため、重複して受けることのない CASEC の使用が適切であると判断した。
- 2) CEFR/CEFR-J に基づき、一部の科目における「CAN-DO」作成と試行の決定：CEFR の枠の中で、（自作の）「CAN-DO」（～ができる）のメリットは、カリキュラムと各授業の到達目標等との関連性・整合性、学習者による自己評価・指導者による評価が可能なことにある。また、これに基づき、自作の発信能力（スピーキング、ライティング

グ) の評価取組みも可能になる。従って、次年度において更に検討し試行的に実施することを決定した。

- 3) CEFR/CEFR-J に基づく「CAN-DO」に加え、プロジェクト等によるカリキュラムの中での組織的な評価の検討。
- 4) 生成能力（スピーキング、ライティング、コミュニケーション力）及び異文化理解力等の測定の継続検討：スピーキング、ライティング、コミュニケーション力の評価が試験の一部、または付属する試験として可能な検定試験もいくつかあるが、殆どの場合コストが相当に高い。上記2) のように自作テストなどによる評価も可能だが、公式の検定による評価も価値がある。同様に、異文化理解力の評価は、テスト・調査による測定が可能であり価値があると思われるが、数ある選択肢の中で、コスト、実施の易さ、内容の適正等を検討する必要がある。

以上の内容に従い、次年度において評価のあり方を継続的に検討し、FD や教育改善のため、コース関係者と共に正確な取組みを構築することが望まれる。

以上